

平成24年7月1日

発行人 長野県民生児童委員協議会
会長 百瀬 弘

編集人 編集委員会
委員長 熊井 文弘

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

特集



「別荘地」問題を探る

～飯綱高原の実態と対策～

Contents

特集 「別荘地」問題を探る ～飯綱高原の実態と対策～	2
訪問①諏訪市北部地区「支えあいの地域」	4
訪問②小布施町「知恵を出し合う」	5
ひろば／川上村・辰野町・松川村・中野市	6
平成24年度長野県民生児童委員協議会事業計画	8

「別荘地」問題を探る

～飯綱高原の実態と対策～



◀ 住民が協力して建てた、飯綱高原ビジターセンター「オトナリハウス」でインタビュー

近年、長野県内各地で、行政区に属さない「別荘地」やマンションなどの住人の生活実態の把握が困難で、民生児童委員として、どうしたらいいのかが不安を覚える地区も出てきています。今回は、長野市芋井地区圏内に位置し、移住者が増え続ける「飯綱高原」の実態と対策、民生児童委員の動きについて取材しました。

別荘地が住宅地に変容 民生児童委員活動の空白地帯

飯綱高原は、長野市街地からループ橋を經由し、車で20分。長野市ボブスレーリユージュパーク、飯綱高原スキー場、大座法師池やキャンプ場、長野カントリークラブなどが位置するリゾート地として、古くから県民に親しまれてきました。高原内にはペンションが点在し、別荘地が広がっています。

その大部分が芋井地区に位置する飯綱高原は、現在約360世帯、千人弱が暮らしています。そのうち、行政区は麓原区、栄峯区、飯綱区、飯綱西区、飯綱南区、飯綱東区の6区。比較的新しく別荘地となったところは行政区外で、からまつ坂隣組、飯綱北隣組、モーグルビレッジ隣組、グリーンヒルズ隣組の4地区です。その他の地区は隣の浅川地区圏内となっています。実は6年ほど前までは浅川地区とはっきりとしたラインも取り決めておらず、民生児童委員の活動の空白地帯となっていました。

こうした行政区外地域は、もともと別荘地として利用されていて、軒数も少なく短期滞在者が主でした。しかし長野五輪を契機に市街地へのアクセスも良くなり、自然環境に恵まれていることなどから、別荘兼住宅として開発が進み、退職した都会の夫婦や、若者や知識人、外国人などの移住が増えています。

飯綱高原コミュニティ協議会設立 自分たちの手で地域に団結力を

平成15年、区長や各種団体や住民らが集まって「飯綱高原地域懇談会」を開催しました。組織を超えた自由な形での地域に対する意見交換が行われました。平成19年4月、飯綱高原6区の区長と4隣組長、育成会、観光協会、消防団、

ボランティアグループなどの住民で「飯綱高原コミュニティ協議会」を設立。地域内の課題を掘り出し、それに対応する独自事業を展開、住民自治協議会との協働や行政との協議なども役割のひとつとなっています。



飯綱高原コミュニティ協議会
会長の及川渡さん

飯綱高原コミュニティ協議会会長の及川渡さんは「とにかく以前は、隣組4区に関しては離れ小島という感じで、区の情報も入ってこないし、隣組の中で取りまとめる役も機能もなかった」と言います。こうした住民主導の協議会という組織が力ギとなつてようやく、課題に取り組みだしたのは5年前のことです。

“元村”と温度差が大きく、 別荘地の実態は甘くない

一方で、長野市は都市内分権を推進し、平成18年には「芋井地区都市内分権検討委員会」が翌19年には「芋井地区住民自治協議会設立準備会」が立ち上がりました。「元村」と住民が呼ぶ「芋井」は古くから稲作やりんご栽培などの農業地帯で、同協議会圏内となる飯綱高原地域との調整が課題としてあがっていました。

「私は、元村の芋井に住んでおり、地域内のごとは家族構成からお年寄りのことまでまなく把握している。『伍長』という組織になっている。区長は伍長に配布物などをお願いしたり、近所の様子を把握している。100%福祉台帳も調っている」と長野市民児協副会長で、芋井地区民児協会長の西澤定男さん。

「飯綱高原は、都会からの移住者が多く、誰が住んでいるのかさえ把握できない。行政区外



▲いまも住宅地が開発され、新しい家ができています



▲NPO法人飯綱高原よっこらしよ「よっこらしよ農園」にオープン予定のコミュニティーサロン

及川さんも加わって、協議会設立の2年後に、協議会の有志や住民が「NPO法人飯綱高原よっこらしよ」を立ち上げました。地域で事業を継続して行う実行部隊のNPO法人です。遊休

NPO法人を核に、多世代交流の拠点をスタート

話にはならない」と言われてしまうことも。できるだけ、民生児童委員の自己紹介カードを入れてくるようにしている」と大変さを説明します。「今のところ一人暮らしの老人は少ないが、手を差し伸べることが必要な人もいる。福祉台帳や、避難計画もなかなか出てこないのが実態」と現状は厳しいようです。



飯綱高原の半分を担当する民生児童委員横田さとさん

網高原全体が、地域にかかわるのはわずらしいという理由で移住している人も多い。だから区長がいる地域でも区内の把握が難しく、個人情報を得ることは難しい。一戸一戸訪ねていくと「おたくの世



芋井地区民生児童委員協議会会長の西澤定男さん

が、今後、さらに戸数が増え高齢化していくと、民生児童委員を増やしたり、福祉推進委員を配置するなどの手をうつていかないと見守れないのでは」と懸念しています。

の隣組4区に関しては、担当の民生児童委員が住民とのかわりを支えている」と説明します。また「飯綱高原地区担当の民生児童委員は2名だけ。今はまだ高齢者は少ないようだが

新と旧が入り混じる芋井地区を支えるのは、住民自身の組織づくりと、そこに積極的にかわる民生児童委員のきめ細かい努力のおかげだと痛感しました。

同行した西澤会長は「飯綱高原は県外からいい人材も移住してきている。訪問者へのおもてなしの心はすばらしい。確かに芋井の「元村」とは温度差があるが、飯綱高原コミュニティ協議会の影響は大きい。地域全体が団結して芋井地区全体のよさをアピールし、民生児童委員として住みよい地域づくりに貢献していきたい」と笑顔です。

地を案内してくれた横田さん。

農地を借りた野菜の栽培や、自然観察ツアーなどを行い、地区内外から参加者をつのり、交流事業を行っています。



▲横田さんが、飯綱高原の地域を案内してくれました

訪問

民児協 だより



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーと各ブロックの委員から活動を通して感じたことやエピソードを率直に寄稿していただく「ひろば」コーナーです。

諏訪市北部地区民生児童委員協議会



▲病院の看護用の使い捨ての布「清拭布」は、古いシーツなどを、住民が小さく切り、約1万枚を用意

「ややつらまぢびへり」をかかげ、
支えあいの地域への取り組み進む。

諏訪湖の東側、大和(おわ)地区と湯の脇地区、各4区で構成される北部地区。今回は市社会福祉協議会が提唱する「支えあい活動」を実践に行っている大和2区を中心にして会長の宮坂正義さんに話を聞きました。
大和2区は266世帯630人。ほとんどが昔から住んでいる住民です。高齢化率は36・5%と高く、諏訪湖へと続く坂沿いに住宅地があり、風光明媚である一方で、高齢者にとって生活の支障のひとつとなっています。

「自分も生まれ育ったこのまち、ここに住んでよかったと住民が思えるようなまちにしたい」と宮坂さん。平成21年、地域住民と共に「大和二区支えあいの地域づくり推進委員会」を結成。福祉推進委員、民生児童委員、

区長、小中学校のPTA役員ら12人でスタートしました。まず「お困りことはないでしょうか」というアンケートをとった。ゴミ出し、雪かきなどの要望が。それに対して助けたいと希望す

る大人や子どもが多かった」といいます。それをもとに、推進委員会では「さあ始めよう、さあ支えあいのまちづくり、笑顔で、あいさつ、いき

いき大和二区」という標語を載せたチラシを配布。「ひと」を支えるのは「ひと」であり、あいさつや見守りをし、「そっと」寄り添うこと」とても大切なことです」という理念を訴えました。また推進委員の連絡先も公開し、いつでも住民がアクセスできるようにし、助ける人と助けられる人のマッチングをしています。

「昼間家で一人になってしまふ高齢者も多い。市の独居老人向け「安心カード」を、全高齢者に提供できないか」など、アイデアを出し合い取り組むのと並行して、地域の家族関係や生活環境の把握を行っています。2区での取り組みを北部地区例会で紹介しました。他地区でも取り組み始めており、民生児童委員が支えあいのまちづくりに一役かっています。

また、大和・湯の脇地区それぞれにシーツや浴衣のポストを設置し、40〜50人の住民で、清拭布1万枚を毎年赤十字病院へ提供。70歳以上の独居者対象の高齢者交流昼食会では、地域の人が落語舞踊、楽器演奏などの演芸を披露・交流をします。



▲北部地区例会で。最前列真ん中が宮坂会長。

小布施町民生児童委員協議会



▲町役場の一室で行う心配ごと相談の様子

委員が抱える疑問として「民生児童委員としてどこまでやればいいのか」がありますが、その悩みも、気軽に話し合える雰囲気の中で折り合いが見つかる場合が多いとのことです。

支え合いマツ

小布施町は、町役場を中心に半径約2キロにおさまるコンパクトなサイズで、全域が平たんな農業地帯です。人口約1万2千人に対し、民生児童委員16人、主任児童委員1人の計17人。地形、産業、人口構成などの点で地域による差があまり大きくなく、住民間の交流も盛ん。「一人あたりの担当が200〜300世帯あるので、きめ細かな対応がしにくい」とのことですが、地域性としては「まとまりやすく活動しやすい」と丸山六四郎会長。民生児童委員として11年、今期会長に就任したばかりです。まずは、留さんの意見を気軽に聞いてもらうことが抱負です。その言葉通り、定例会の意見交換は活発です。事例をあげ、どう対処したかを報告する委員があると、次々と質問や対処方法への感想意見が与えられ、建設的な討議の場となります。多くの

まとまりのある地域で、知恵を出し合いながら福祉に貢献

委員が抱える疑問として「民生児童委員としてどこまでやればいいのか」がありますが、その悩みも、気軽に話し合える雰囲気の中で折り合いが見つかる場合が多いとのことです。

プの作成、ふれあい給食の利用促進に加え「小布施荘オンブズマン」は協議会独自の活動です。町内の特別養護老人ホームを委員が数人のグループで毎月訪問し、入居者と話しします。「食事はどうですか」などと、話を聞くだけで落ち着いてもらえる」と丸山会長。プライベートに踏み込まないことは、施設長との取り決め事項で確認済み。職員からも話しを聞き、お目付け役を果たしています。

ひとり暮らしのお宅には、社協の便りや旅行案内などを持参して年6回は訪問。「孤独死を出さない」活動のひとつにしています。この時振り込め詐欺の情報を持参して注意を呼びかけることも。また、協議会独自の活動ではありませんが、役場の一室で月2回行う「心配ごと相談」では、委員がふたりずつ交代で住民の相談にのっています。関係機関を紹介するためのパンフレットを机上に準備してつないだり、話をきく方がいいケースは傾聴に努めたりと臨機応変です。分野を問わない相談窓口として住民のよりどころであり、委員にとっても地域の現状を知る場となっています。



▲前列中央が丸山会長



表紙写真紹介

平尾山公園 ユリの花園

佐久平PAから直結したハイウェイオアシスとして誕生した公園。冬季はゲレンデでスキーを楽しむことができる。夏季はユリなどの花園のほか、サマーフト、スーパースライダーアスレチックなどを楽しむことができる。



撮影

佐久市
主任児童委員

木内 精司 さん

profile

今まで2回も表紙に使っていただき光栄です。写真を趣味とされている方々にも応募してほしいです。これからも写真仲間と共に作品づくりに励みたいと思っています。

表紙写真募集!!

表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。日ごろ写真を趣味にしていられる民生児童委員の方々の地域の風景やお祭りなどの風物詩を撮った写真を募集します。

デジカメで撮った作品の電子データをCDRに入れて、撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を添えて県事務局までお送りください。詳細は県事務局(026-225-1613)まで。

ひろば

東信ブロック

「ふれあいランチサービス」で冬季の交流を

南佐久郡川上村民児協

中嶋 武弥

川上村は標高1100メートル以上の千曲川源流の村で、夏の冷涼な気候を生かした高原野菜の産地です。村内は8つの地区に分かれており、私はその一つの地区を担当しています。

民生児童委員の役割は、毎月の定例会、独居・高齢者世帯の訪問や各種行事への参加です。その中でも、冬の閑家に閉じこもりがちなお年寄りに、健康相談やレクリエーション等、そして昼食を提供する「ふれあいランチサービス」は、民生児童委員にとってやりがいのある仕事の一つです。私の地区では各団体の役員で運営委員会を組織して、大勢のお年寄りが参加して、満足して帰ってもらえるような内容を計画しています。昨年度は12月と2月に百人一首やカラオケ大会、季節を感じさせる昼食の提供を行いました。帰り際には「楽しかった」「ご飯おいしかった」という言葉が寄せられ、運営委

員の大きな励みになりました。

冬の間の数回の事業ですが、近所づきあいの少なくなってきたる現今、お年寄りのために地域全体で考え、支え合つことができる集まりとしてこれからも続けていきたいと思っています。



▲手作りの昼食を参加者でおいしくいただきました

南信ブロック

”吊し雛“作りで町が元気に

上伊那郡辰野町民児協

吉江 洋子

「NPO法人辰野自立生活支援の会あかり」は支援事業の他に生きがいづくり事業として、多くの人たちに元気でいてもらう手助けをする教室を開いています。その一つ『たつの吊し雛あかり教室』は6年目になり、60数名の参加者が目的を持って制作に励んでいます。

その中に80代前半の気力低下とお見つけする方がいました。家族に心配されながら通っていました。教室の空気にとけ込まず、私の声げにもあまり応えることもなく、ひたすら制作している状態でした。3、4カ月過ぎたころからでしょうか、顔の表情に明るさと笑顔が見られ、みんなとの話にも乗るようになり、私のよき協力者になってくれるようになりました。手先と頭を使いきれいな絹の古布に触れ、人形制作をしている間に自分を取り戻していったのでしょう。家に帰ってからはお嫁さんに教えていたとのこと。これも回復できた要因でしょう。参加している他の人たちも同様、



▲桜まつり吊し雛展示(パークホテルロビー)

皆明るく楽しく続けています。きつとどのご家庭も吊し雛を通して円満に助け合つて生活を送っていることと思います。

吊し雛はひと飾りに人形を35個、細い紐に縫い止め吊るします。ひとつひとつ心をこめて丁寧仕上げること大切に、1年半〜2年をかけて立派な吊し雛を完成させます。人との出会い、ふれあいを大切に、辰野の町に吊し雛が飾られる家が増え、元気になれることを願い活動してまいります。

中信ブロック

認知症と向き合って

北安曇郡松川村民児協

小林 文恵



▲サポート講習の様子

民生児童委員として2期目に入った私が最初に直面した問題は、就任後6カ月目の朝9時頃に起こりました。警察の方が来られ「ご婦人から電話があったが当人が家にいない」とのこと。急いでお宅を訪問したところ応答がなく、一瞬嫌なことが頭に浮かびました。それでもディサービスに電話を入れたところ「来ています」とのこと、「ホッ」とするやら腰が抜けるやら、と同時に「大変なことを引き受けてしまった」と思いました。認知症という言葉を知って



▲楽しむ参加者たち

はいても現実には直面すると、さぞどうしたら良いものか右往左往するばかりでした。今では思い出話ですが、その後もいろいろありました。この方ばかりではなく、他にも気丈に生活していると思われた方が何となくなくなっている姿を見て愕然としたこともありま。幸い保健センターの方が早めに手をつとてくださいましたので、問題はありますが、今のところは平穏です。

ひとり暮らしの寂しさと不安がさまざまな形で表れてくるのでしょ。どう慰めて良いのかもわかりませんが、ただ話を聴いて寄り添うことができればと思います。

認知症の方を支えるための「サポート講習」が「ふれあいサロン」で行われ、受講しました。そこで学んだことを実践し、少しでもお役にたければと思っております。

北信ブロック

共に思いやりと信頼関係で

中野市中野地区民児協

工藤 一二八子

民生児童委員31名の中野地区民児協では、委員同士の意思疎通を図り、研修や視察を個々が抱える問題解決の糸口とし、地域にあった活動を心がけております。

個人情報保護法の施行以降、行政機関からの情報提供が減り、福祉活動にも苦慮していましたが、中野市民児協の理事会が中心となり行政機関と協議してきた結果、高齢者世帯名簿や保育園児名簿など委員が民生児童委員活動のために必要と判断した情報について、要望すれば提供していただけるようになり、今後の活動に役立つこととなりました。

私の住む東吉田区は昭和39年に数十軒で分区分発足し、私も共に歩んでまいりました。現在は800軒近くに増え中野市第2位の大規模区となり、高齢者や子どもが多い中、民生児童委員の努力が実り区内に社協組織が発足しました。区長を会長に区執行部・民生児童委員・保健指導員、老人クラブ・更生保護女性会が構成し、地域福祉の増進を図っています。



▲楊枝と割り箸で壁飾り



▲ママと一緒に楽しいな

各団体共催事業のほか、2カ月に一度の「子育て支援事業」はセンタ職員との協力で開催。未就学乳幼児の楽しい運動や母親同士の交流、情報交換の場としております。また、全区民を対象に毎月開催する「ふれあいサロン」も好評です。参加者の希望で防災訓練・花見・運動・簡単な作品作り等、毎回30人ほどの参加があり役員は大忙し。歌を歌ったり、お茶を飲みながらの情報交換は区内の把握にも役立ち、「楽しかったよ。また来るね」の声で解散となります。いつも民生児童委員が要となることが多く少々苦痛に感じる時もありますが、家族の理解と協力に感謝し後悔のない民生児童委員活動をしたいと思っております。

目標

「つなげよう！ 広げよう！ 支え合いの“わ”」

—地域の人と人をつなぐ民生児童委員活動の充実—

事業の重点

1 「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」の継続と充実

平成18年から推進してきた災害時要援護者支援は、地域住民が支え合う取り組みであり、民生児童委員の日常活動である地域の実態把握と見守り・支援活動と密接につながっています。これまでの活動実践をふまえ、地域の関係機関・団体等との連携・協働体制の強化を図ります。

2 地域社会での孤立・孤独をなくす運動の推進

地域社会での孤立・孤独をなくすために常にアンテナを高くし、行政や地域の福祉団体等と協力しながら住民同士のつながりを再構築する取り組みをすすめます。

3 地域における子育て支援活動の推進

児童虐待や犯罪被害等から子どもを守るため、孤立した子育て・孤独な子育てをなくす活動に取り組みます。このためには、地区担当の児童委員と主任児童委員が連携し、地域で子どもを育てる気運の醸成に努めます。

4 福祉課題を抱える生活困難家庭への支援活動の推進

複雑で困難な生活課題を抱え、精神的にも経済的にも不安な状態を抱える人（世帯）を発見し、必要な支援につなげるとともに、相談相手となり見守りを行いながら自立支援に努めます。

5 単位民児協の組織強化の推進

地域の多様なニーズに対応する民生児童委員活動を展開するため、単位民児協の組織強化を図り、民生児童委員同士が助け合い、励まし合いながら活動できる場とします。

6 民生児童委員が活動しやすい環境づくりの推進

民生児童委員ならびに単位民児協における課題を整理・検討し、民生児童委員が活動しやすい環境づくりを推進します。

7 地域福祉のネットワークづくりの推進

地域に潜在しがちなニーズを発掘し、支援を行うために、地域内の関係機関・団体（施設・ボランティア関係者を含む）との協働・連携を強化し、要援護者を支えるきめ細かなネットワークづくりを推進します。



今年に入ってから、「孤立死」や「孤独死」が社会問題として、テレビ報道や新聞記事等で大きく取り上げられてきています。

核家族化や少子高齢化の進行する今日、別荘地への定住や田舎暮らしを求めている都会からの移住者の増加、都市化に伴う地域連帯意識の希薄化などから、民生児童委員による担当地区内の実態調査も大変さを増してきています。

現在、各行政区でも防災訓練や「災害時住民支え合いマップ」の策定などが行われていますが、災害時にあつて最も頼りになるのは、隣近所の皆さんの行動や声かけです。

そんな中、「高齢者 みんなで見守る」という見出しで、松本市・四賀地区に一人暮らしの高齢者を支える住民ボランティア「つながり隊」の発足を紹介する新聞記事を目にし、今後の同グループの活動に期待をしているところでもあります。早いもので、民生児童委員の任期も残り1年3カ月余となりました。

誰もが生き生きと暮らせる地域づくりを目指して、地域の皆さんの相談相手、行政との橋渡し役として、日々身近なできごとから一つ一つ問題解決の道しるべを、たどってまいりましょう。

（小平 實）

編集委員／ 熊井 文弘・守屋 輝代・小平 實・小林 善則